

# し ちょう 四分町

## 市内二か所目の水田跡

四分町は、特別史跡・藤原宮跡の南西、飛鳥川の右岸に位置しています。

同町門ノ前に鎮座する鷲栖（さぎす）神社の東一角で昭和四六年、弥生時代の住居跡（四分遺跡）が発掘され、市内の中曽司（なかぞし）や一（かず）町と同じように最も古くから、人の住み着いた所だったことが分かりました。

奈良国立文化財研究所が「藤原宮跡の下層部」として発掘した四分遺跡からは、集落を囲んだ溝（環濠）や住居跡と井戸に弥生時代後期の水田跡が見つかり、同時代の全期を通じた多数の土器も出土しました。この時代の水田跡らしい遺構が、檀原市内でもう一か所発見されており、地域の稲作を考えるうえで貴重な遺跡として注目されました。

四分（しぶ）の地名は古代、朝廷の祭典をつかさどった遊部（あそびべ）の「あそぶ」が「そぶ」となり「しぶ」に変化したのだといわれています。

この一帯は古代、遊部の人びとがのんびり住んでいたのでしょうか。上流で「淵瀬（ふちせ）常ならず」と万葉集に詠まれた飛鳥川も、ここまで来ると町の東を北に向かってゆるやかに流れています。